

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト：2021年度の実施状況について
Author(s)	名塩, 征史
Citation	広島大学留学生教育, 26 : 73 - 77
Issue Date	2022-09-30
DOI	
Self DOI	10.15027/53190
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053190
Right	
Relation	



森戸国際高等教育学院による独自のオンライン・プレースメントテスト : 2021 年度の実施状況について

名塩征史

森戸国際高等教育学院（以下、本学院）では、各留学生の日本語レベルに応じた日本語授業の提供を目的とし、前期・後期の開始前にプレースメントテストを実施している。本報告は、2021 年度に実施された本学院独自のオンライン・プレースメントテスト（以下、OPT）について、事前申請件数、アカウント登録者数、受験者数、実施の際に発生した問題、今後の課題をまとめたものである。なお、報告者は当該試験の実施・運営を取り仕切る立場にあり、試験問題の作成には関わっていないため、ここでは当該試験の実施にかかるオンライン・システムの運用に関連する範囲に報告をとどめる。

◆ 前年度 OPT の実施を通して明らかとなった課題への対処

2020 年度 OPT の実施を通して、次のような3つの課題が明らかとなった（前号の報告を参照）。まずは、これらの課題への対処について報告する。

- 1) 受験回数の制限について
- 2) 劣悪な通信環境に起因する一部問題の動作不良について
- 3) 受験前後に行われる E メールでの通知について

1) について、2020 年度に実施された2回の OPT では、受験回数を2回までとし、特に後期実施の際には、何かしらの不具合によって1回目の結果が記録されていない場合のみ2回目の受験を認めること、1回目の結果が記録されたにもかかわらず2回目の受験を行なった場合には不正を行ったとみなす旨を受験マニュアルに明記した。この措置は、運営側の不手際やシステム不良が原因で1回目の受験に失敗してしまうケースを想定し、受験者自身で速やかに再受験できるように講じたものであった。これにより、万一こうしたケースが多発した場合に、すべてのケースに担当者が逐一对応しなくても、受験者を救済することが可能になる。しかし、こうした当初の想定とは異なり、実際には1回目の結果が記録されたかどうかに関わらず2回目の受験を行う者が予想以上に多く、その対処と再受験の手続きに多くの時間と手間が費やされる結果となった。一方で、8割以上の受験者が1回目の受験で結果の記録を残しており、1回目の記録が残っていない場合でも、その原因が運営側の不手際やシステム不良ではないことが確認された。そのため、受験回数

をシステム設定上で予め1回に制限しても、OPTの実施には支障がないものと判断し、2021年度では、登録者全員の受験回数を1回に制限することとなった。

2) について、受験者側の通信環境が必ずしも十分な仕様を満たしていないことも多く、特に通信速度が不安定であることに起因して、前回のOPTでは聴解問題の音声ファイルが再生できないケースが確認された。この問題を運営側から解決することは難しいが、理想的な通信速度の確保が難しい受験者が一定数存在することを踏まえ、聴解問題で採用する音声のファイルサイズをできるだけ小さくし、また受験者に対しても、周辺の公共施設やインターネットカフェなど、できるだけ通信環境の良いスペースを確保した上で受験するように、受験期間中に繰り返し通知を行うこととなった。

3) については、OPT実施前のプレテスト(2019年度実施)から既に問題となっていたが、受験(希望)者自身の意識改善がこの問題の解消につながると考えられる。具体的には、普段からよく使っているEメールアドレスを登録すること、事前登録申請後とテストシステム(Moodle)へのユーザー登録後の自動返信メールは迷惑メールとなってしまうこともあるため注意が必要であることを、各受験(希望)者に周知することが当該問題への差し当たりの対策となる。2021年度では、各部局の担当者とも連携し、上記のような周知を徹底することとなった。

以上の対処により、昨年度に明らかとなった問題のほとんどは解消されたが、なかには完全には解消されないまま、次年度以降も対応を余儀なくされる部分も残された。これについては本報告の「実施の際に発生した問題」で後述する。

◆ 2021年度OPTの概要

<日程>

2021年度OPTは、前期授業(4月~8月)、および後期授業(10月~2月)の開始に合わせて、表1に記した日程で2回実施された。

昨年度の後期授業に向けた実施スケジュールを踏襲し、2021年度では前後期ともに授業開始日の1週間前には受験者(履修希望者)のレベル判定が全て完了するように日程が組まれ、その後の事前登録申請、およびOPTの受験は、原則として認めない方針が採用された。受験期間終了後の受験を認める「救済措置」を検討する余地のある事情(運営側の不手際、通信状況の不具合など)によって期間内に受験が完了しなかった受験希望者については、希望者本人からではなく、希望者が所属する(予定の)学部/研究科/プログラムの担当者から依頼を受ける形で個別に対応した。残念ながら、2021年度ではこの「救済措置」の対象となるケースが急増し、授業開始後もしばらくの間は再受験を実施しなければならない事態となったが、その要因については本報告の「実施の際に発生した問題」で後

述する。

表 1 : 2021 年度 OPT 実施日程

前期	後期
2/19 (金) : 実施要領について各部局へ通知	8/16 (月) : 実施要領について各部局へ通知
3/5 (金) : 事前登録申請開始	8/30 (月) : 事前登録申請開始
3/11 (木) : OPT 受験開始	9/6 (月) : OPT 受験開始
3/25 (木) : 事前登録申請終了	9/21 (火) : 事前登録申請終了
3/30 (火) : OPT 受験終了	9/26 (日) : OPT 受験終了
3/31 (水) : レベル判定会議	9/27 (月) : レベル判定会議
4/1 (木) : レベル通知	9/28 (火) : レベル通知
(4/8 (木) : 前期授業開始)	(10/4 (月) : 後期授業開始)

<事前申請者数、アカウント登録者数、受験者数>

2021 年度に実施された 2 回の OPT について、各回の事前申請件数を表 2 に、またアカウント登録者数と受験者数を表 3 に記す。

表 2 : 2021 年度 OPT の事前申請件数

	前期			後期		
	学習歴あり	学習歴なし	合計	学習歴あり	学習歴なし	合計
在学生	167	24	191	121	25	146
新入生	117	33	150	176	85	261
合計	286	57	341	297	110	407

表 3 : 2021 年度 OPT のアカウント登録者数と受験者数

	前期	後期
アカウント登録者数	266	297
受験者数	231	245
未受験者数	35	52

2020 年度から続くコロナ禍の影響で、2021 年度に本学院が提供する授業も原則としてオ

ンラインでの実施となった。そのため渡日の是非を問わず授業への参加が可能となり、事前申請件数の大幅な増加が見込まれていた。しかし、前期は341名と昨年度前期の人数をわずかに下回り、最終的な受験者数は231名と昨年度前期から20%ほど減少した。後期の事前申請件数は昨年度後期よりもわずかに増えたが、受験者数は昨年度後期とほぼ同数であった。なお、事前申請を行なった者のうち、日本語学習歴のない者はOPTを受験せずに日本語入門（Introductory Japanese）コースに登録されるため、後期の事前申請件数の増加は、日本語学習歴のない申請者の増加を示していると言える。ただし、結果として学期中に授業を履修した人数は、昨年度後期とほぼ同数であったことから、むしろ2021年度においてはコロナ禍による入国制限などの影響で受講を断念した学生が増えたと見ることもできるだろう。

また、本来であれば、表2の事前申請件数のうち、「(日本語) 学習歴あり」の件数が表3のアカウント登録者数と一致していなければならないが、昨年度同様、2021年度前期では、前者の数よりも後者の数が少なくなっている。これは表2に示す事前申請件数が「延べ件数」であり、実際には重複して申請する受験希望者が含まれているためである。この点について、後期では「学習歴あり」の事前申請件数とアカウント登録者数が一致しているため、事前申請にかかる混乱が実施回数を経ることで解消されつつあると期待できる。

◆ 実施に際して発生した問題

2021年度のOPT実施に際して発生した3つの問題について以下に記す。

< 1. OPTの結果／点数が記録されないケースについて >

先述の通り、2021年度からは受験回数を1回に制限し、受験に失敗した場合には速やかに本学院プレースメントテスト委員会宛に連絡するように受験者には予め通知されていた。受験失敗の連絡は、前期では30件前後、後期では20件前後寄せられたが、その多くは受験者がOPTから誤って、もしくは故意に退出してしまったことが原因であった（たとえ途中退出でも1回の受験として記録される）。中には、通信状況が不安定なために、途中で接続が途絶えてしまったり、再接続が行われたりすることで自動的に退出扱いとなり、受験ができなくなってしまうケースもあった。テストの中断を可能にする仕組みの導入は検討の余地があるものと考えられるため、今後の課題の一つとなるだろう。

受験の失敗で最も多かったのは、OPTの結果／点数がシステム上に記録されていないというケースである。全ての設問に回答すると、最後にテスト結果を送信する（Moodleに記録する）ためのボタンが表示される。受験者はOPTから退出する前に、このボタンをクリックしなければならないのだが、それを忘れてしまう受験者が少なからず確認された。中には、テスト結果の送信ボタンをクリックし、受験者側のページではその送信が完了した

ことを確認できているにも関わらず、Moodle 上には記録が残らないという事態も発生した。この問題の原因は本報告の執筆時点でもまだ明らかとなっていない。このような事態は 2021 年度後期に 2 件発生しており、そのうち 1 件については点数が表示された受験者側のページの画像を送信してもらうことで個別に結果を記録し、もう 1 件については本学院の日本語教員が別途 ZOOM を介して受験者と面接試験を行い、その結果をもって OPT の結果に代えるという措置が講じられた。

< 2. OPT へのアクセスが遮断されるケースについて >

2021 年度後期には、通信状況が安定していて、他の Web サイトには問題なく表示されるにも関わらず、OPT にアクセスすると通信が遮断され、ページが表示されなくなってしまうという極めて稀なケースが確認された。このケースでは使用されていた PC、OS、Web ブラウザのどれもが一般的なもので、他の受験者と比べても特に変わった様子がなかったため、利用していたネットワークに何かしらの特別な制限がかけられていた可能性がある。また上記のテスト結果が記録されないケースも含め、受験に失敗した受験者のほとんどが中国国内からの受験であったことから、中国に特化した情勢に関連する問題とも考えられるが、原因は明らかになっていない。このように OPT へのアクセスが遮断されてしまう事態が、2021 年度後期に 1 件発生し、これについては本学院の日本語教員が別途 ZOOM を介して受験者と面接試験を行うことで、OPT の受験に代えるという措置が講じられた。

< 3. 救済措置の増加について >

2021 年度においても、やむをえない事情により OPT 受験期間内に受験を完了できなかった受験希望者については、希望者が所属する（予定の）学部／研究科／プログラムの担当者から依頼を受ける形で、受験期間終了後の受験を認める「救済措置」が講じられた。2021 年度の救済措置は前期では 2 件に留まったものの、後期では 15 件と大幅に増加し、本来であれば 9 月末に終了するはずの OPT が、10 月半ばごろまで実施される結果となった。受験期間中に受験できなかった理由としては、受験希望者自身が単純に受験し忘れた（受験期間を明確に把握していなかった）というものがほとんどだが、関係部局の担当者と本学院担当者との間で十分に情報共有がなされていなかったために受験希望者への情報提供に不備が生じていたケースも少なからず確認された。次年度の実施に当たっては、OPT 実施の目的や手順、その重要性等について関係各所と改めて共有し、協力関係を深める必要がある。